Kawara-Ban

名大病院 NEWS かわらばん

2026.10 142号

CONTENTS

① ・あなたにとって大切なこと、考えてみませんか。「アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）」の取り組みを進めています。
・新任のご挨拶
・心魂プロジェクトによる「こころだま公演」を開催

② ・名大病院臨床研修医のご紹介
・診療科レポート「消化器・腫瘍外科（消化管）」
・鶴舞公開講座
・ナディック通信

名古屋大学医学部附属病院

理　念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。　2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。　4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地　TEL 052-741-2111（代表）
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/
ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます



特集 TOPICS ①

あなたにとって大切なこと、考えてみませんか。
「アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）」の取り組みを進めています。

皆さんは、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）」をご存じですか?
名大病院では、患者さん一人ひとりの想いをお聞きし、より良い医療・ケアに活かしていくために、ACP（人生会議）の取り組みを進めています。これまでの活動や今後について、ワーキンググループの皆さんにお話を伺いました。

大切にしたいことは一人ひとり違う だからこそ、ご本人の想いをお聞きしたい

ACP（人生会議）とは、自分が大切にしたいことや望む生き方、「もしものとき」にどのような医療やケアを望むかについて、前もって考え、話し合っておくことです。ご家族や信頼できる人、そして医療・ケアチームと話し合っておくことは、ご本人の想いが尊重され、ご本人が望む医療・ケアの実施につながります。現在、厚生労働省が中心となって普及・啓発を進めています。

当院でも以前から、患者さんがご自身の意思を伝えることが難しくなった場合に備えて、医療やケアに関する意向をあらかじめ伺うための文書を用意していました。しかし、実際には、ご本人が意思を伝えることが難しくなった段階に至って、ご家族が代わりに記入されるケースが多く、もっと早いうちからご本人の想いをお聞きすべきではないか、という問題意識を持っていました。そのため、2023年に幅広い診療科の医師や看護師、薬剤師、弁護士など多職種からなるワーキンググループ（WG）を立ち上げ、ACPの普及に取り組んでいます。

無理に書かなくても大丈夫 文書が話し合いのきっかけになることを願って

WGでは、従来の文書を現場の声を反映した内容へ刷新するため、試案を病棟で運用。患者さんとの継続的・段階的な対話のツールとして、2種の文書『あなたの想いを教えてください』『私の想い～医療・ケアに関する意思表明書～』を作成し、2025年秋に院内全体で活用を始めました。『あなたの想いを教えてください』は年齢や病状に関わらず、すべての入院患者さんに『入院のご案内』と共にお渡ししています。

こうした文書を渡されると、不安に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、書くことを強制するものではありませんので安心ください。文書の目的は、患者さんの日頃の想いや大切にしていることを、ご家族等や医療・ケアチームと共有することです。文書を1つのきっかけとして、その時々のご自身の想いをご家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う機会を持つことが、より良い医療・ケアにつながると考えています。

多職種が力を合わせて 患者さんの想いを紡いでいく

文書を活用する中で、医師や看護師など医療者の意識も変化しつつあります。例えば、看護師はロールプレイを通じて患者さんへの関わり方を学び合い、患者さんと今まで以上に対話を重ねるようになりました。最近は病状だけでなく、患者さんの生活背景や想いをカルテに細かく記載する看護師も増え、それを医師が受け取って診療に活かす循環も生まれつつあります。

一方、患者さんが書いた言葉だけで判断するのではなく、多職種がそれぞれ異なる立場で患者さんと接することで、「言葉にならない想い」に耳を傾けることも大切にしています。受け取った想いを多職種で連携して紡ぐことで、患者さんの意向を大切にした医療・ケアにつなげたいと考えています。

この取り組みは始まったばかり。病院の文化として根づかせるために、今後も研修や講演会など学びの機会を充実させ、病院全体で取り組みを活性化させていきます。「ACPは特別な取り組みではなく、普段の診療や対話の延長線上にある」そんな当院の思いを、患者さんや患者さんを支える方々にも感じていただければ幸いです。



文書『あなたの想いを教えてください』は、『入院のご案内』と共に配布し、外来棟にも設置しています。当院ホームページからダウンロードもできます。

https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/guide/file/2026/pdf/acp.pdf

厚生労働省 / 自分らしく生きるための「人生会議」ポータルサイト HP はこちらから
https://www.mhlw.go.jp/acp-jinseikaigi/



新任のご挨拶



皮膚科長／教授　武市　拓也

このたび、令和8年7月1日付で皮膚科長／教授を拝命いたしました武市拓也と申します。皮膚科では、湿疹、感染症、アレルギー疾患など、皮膚に関わる幅広い病気を診療しています。当科ではさらに、遺伝性皮膚疾患、角化症、膠原病、腫瘍などの専門的な診療にも取り組んでいます。近年、新しい治療薬が次々に登場し、皮膚科診療は大きく進歩しています。患者さんに寄り添い、安心して質の高い医療を受けていただけるよう尽力してまいります。ご不安や疑問がございましたら、遠慮なくご相談ください。

心魂プロジェクトによる「こころだま公演」を開催

令和８年７月13日～14日、日本生命協賛のもと、NPO 法人心魂プロジェクトによる「こころだま公演」が開催されました。心魂プロジェクトは、「劇場に行くことが難しい子どもたちに“こころ揺さぶる劇場体験”を届ける」ことを目的に活動しており、当院への訪問公演は今回で４回目となります。

当日は、ダイナミックな照明と音響を用いたミュージカル公演が行われました。会場は満員となり、多くの子どもたちやご家族が公演を楽しみました。

公演中には、子どもたちからご家族や職員へ「ありがとう」、大人から子どもたちへ「生まれてきてくれてありがとう」と言葉を贈り合う場面もあり、会場は温かな感動に包まれました。子どもたちやご家族、医療スタッフにとって心に残るひとときとなりました。



特集 TOPICS 2



名大病院 臨床研修医のご紹介

名大病院では医科歯科の研修医が医師としての道を歩み始めています。
本シリーズでは、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みを紹介します。

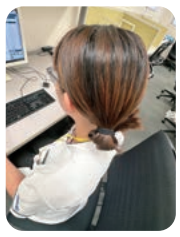
桃原　章（医科研修医）



私は現在、血液内科で研修を行っています。血液内科は、主に白血病やリンパ腫などの血液疾患を扱う診療科です。実際の臨床現場では、これまで学んできた知識だけでは対応しきれない場面に遭遇することもありますが、先生方のご指導のもと、日々の診療に真摯に取り組んでいます。

また、名大病院ならではの研修の特色として、臨床能力を伸ばす傍ら、将来の医療の土台となる基礎研究にも参加することができます。名大病院で基礎医学と臨床現場の双方を経験することで、健康と福祉に少しでも貢献できるよう精進してまいります。

大橋　羅良（医科研修医）



私は現在、初期研修医1年目として老年内科で研修を行っております。老年内科では、患者さん一人ひとりに向き合い、退院後の生活に寄り添った治療計画を立てることを意識して診療にあたっています。病院での診療だけでなく、普段患者さんがどのように生活しているのかを知ることは、医師として大切な視点であり、日々多くのことを学んでいます。

今後も、患者さんにより良い医療を提供できるよう精進してまいります。

野田　佳秀（歯科研修医）



私は現在、歯科口腔外科の外来で初診対応や上級医の補助をしながら日々研鑽を積んでおります。

業務に慣れることや必要な知識を身に付けることに必死になっている中で、ある上級医に「自分がされて嬉しいことをするのが医療だ」とご指導いただきました。その言葉から、治療技術だけでなく、診療に向けて十分な準備を行うことや患者さん一人ひとりの思いを汲み取ることが大切だと学びました。

この研修を通して、患者さんに満足いただける医療を提供できるような歯科医師になれるように精進してまいります。

診療科レポート「消化器・腫瘍外科（消化管）」

消化器・腫瘍外科（消化管）長　神田　光郎



名古屋大学医学部附属病院　消化器・腫瘍外科（消化管）では、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸のがんや炎症性腸疾患など、幅広い消化管領域の外科診療に取り組んでいます。腹腔鏡・胸腔鏡手術やロボット支援下手術などの低侵襲手術を積極的に導入するとともに、進行がんや再発がん、化学療法によって病変が縮小した後に手術を行う「コンバージョン手術」など、大学病院ならではの高度な治療にも意欲的に取り組んでいます。

また、診療だけでなく、新たな治療法や診断法の開発を目指した臨床研究・基礎研究にも力を入れています。消化器がんの治療効果や予後を予測するバイオマーカーの探索、がん免疫や薬物療法に関する研究、周術期の栄養・リハビリテーションによる合併症軽減、手術の低侵襲化や安全性向上に向けた研究など、多方面から「より良いがん治療」を追求しています。さらに、国内外の施設との共同研究や多施設臨床研究にも積極的に参加し、研究成果を日々の診療へ還元することを目指しています。

「良い手術をする」という土台に加えて、患者さんにとっての最善の治療を考え、診療・研究・教育を通じて次世代の消化器外科医療を創造していけるよう、日々の診療に全力で取り組んでいます。

令和8年度名古屋大学鶴舞公開講座

「高齢社会の病気をふせぐ、病気とつきあう ～がん、神経変性疾患治療の現場から～」

開講日時：令和８年12月５日（土）
13時30分～16時10分　※終了時刻は予定

会　　場：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟Ａ 3階講堂／オンライン視聴
※ハイブリッド開催

募集定員（入場無料・要事前申込）：
会場受講120名／オンライン視聴500名

申込締切：令和８年11月13日（金）※先着順

[申し込み方法]

○オンライン視聴の場合
名大病院ホームページより、専用フォームにてお申込みください。

○会場参加の場合
名大病院ホームページより、専用フォームにてお申込みいただくか、「名大受講申込書」をダウンロードし、郵送またはFAXで申込締切日までに届くようお送りください。

（名大病院ホームページ）
※トップページ ＞「病院からのお知らせ」
＞ 令和８年度名古屋大学鶴舞公開講座のご案内

URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

★定員になり次第、受付を終了します。会場参加の場合、受講いただけない場合のみご連絡差し上げます。
★本公開講座のチラシは外来棟各階にも設置予定です。

[問合せ・申込み先]

〒466-8550　名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部総務課総務係　鶴舞公開講座担当あて
Tel（052）744-2774／Fax（052）744-2785
E-mail：iga-tkk@t.mail.nagoya-u.ac.jp

[その他]

駐車場のご用意ができませんので、お越しの際は公共交通機関の利用をお願いいたします。

Nagoya Disease Information Center ナディック通信

ナディックからのお知らせ



患者情報センター（広場ナディック）は、2026年８月１日に病棟の14階へ移転しました。新しいセンターは、鶴舞公園や周辺の景色を一望できる、明るく開放的な空間です。患者さんがご自身で医療に関する情報を得られるよう、一般向けの医学書や各種パンフレットを備えているほか、DVDもご視聴いただけます。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

〈利用時間〉平日10：00～13：00（土日・祝日・年末年始を除く）
※入院・外来を問わず、すべての患者さんにご利用いただけます。



８月24日に開催された「名大患者サロン」の様子です。参加者同士の交流や情報交換に加え、病気とうまく付き合っていくための体験型プログラムも行っています。

次回の開催については、詳細が決まり次第お知らせします。ぜひお気軽にご参加ください。

No.142　医学部･医学系研究科総務課
TEL 052-741-2111（代表）
発行日　2026年10月1日

名大病院は、日本の国立大学病院では初めてのJCI認証施設です。

かわらばん HPのご案内
「かわらばん」は、名大病院ホームページでもご覧いただけます。
バックナンバーや災害医療支援活動の状況、医事統計などを掲載しています。
ホームページアドレス　https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/（トップページ⇒病院概要⇒広報）